

専攻名	両専攻共通	必修・選択	選択	単位	2	学期	1Q
科目群	事業アーキテクチャ科目群	科目名 (英文表記)	経営戦略特論 Corporate Strategy			教員名	板倉 宏昭 三好 祐輔

概要	経営学・経営戦略論を学ぶうえで、必要と考える考え方を解説し、基本的理に重点を置く。経営に関する基本概念のうち、市場、組織及び地域を巡る基本的な考え方を中心にまとめる。公判では経済的アプローチを用いて講師の米国ビジネススクールの経験を踏まえて、MBAでの伝統的な考え方と対比しながら、展開するように心がける。事例を取り入れながら客観的に解説し、現実の社会において経営学・経営戦略論が果たす機能を具体的に理解する。																					
目的・狙い	この授業では、ビジネスに関する基本的な概念を理解し、経営に関する関心を深める。また、実証分析に関する方法を学ぶ。経営学と経営戦略論に関わる基本的な考え方を検討することで、これらの理論が、経営実務においてどのように有効か、妥当かを、自分の実務に照らして検証する。 修得できる知識単位: (A2) K-07-17-01 情報システム戦略(レベル3) システム化構想、システム化基本方針、全体開発スケジュール (A2) K-08-19-01 経営戦略手法（レベル4）競争戦略、差別化戦略、コアコンピタンス、M&A、企業理念 (A2) K-08-19-03 ビジネス戦略と目標・評価（レベル4）ビジネス戦略立案、ビジネス環境分析、ニーズ・ウォンツ分析、競合分析、PEST分析、戦略目標、CSF、KPI、KGI、バランススコアカード (A2) K-08-19-04 経営管理システム（レベル3）CRM、SCM、ERP、意思決定支援 (A3) K-09-22-01: 経営・組織論（レベル4）経営組織、CI、コーポレートガバナンス、ヒューマンリソース																					
前提知識 (履修条件)	・特になし。 ・ケース討議には、積極的な取り組みが求められる。																					
到達目標	上位到達目標 ・企業経営と経営戦略に関して説明できる。 ・企業経営と経営戦略が果たす機能を具体的に理解する。 ・事例について、経営戦略の基本的な考え方を使って、企業戦略や事業戦略の策定や実証分析を行うことができる。 最低到達目標 ・経営戦略への関心を深める。 ・企業経営と経営戦略に関する基本的な概念を理解し、説明できる。 ・実証分析に関する方法を理解する。																					
授業の形態	<table border="1"> <thead> <tr> <th>形態</th> <th>実施</th> <th>特徴・留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>録画・対面混合授業</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対面授業 講義（双方向）</td> <td>○</td> <td>毎回のテーマに関する講義と討議</td> </tr> <tr> <td>実習・演習（個人）</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習・演習（グループ）</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>サテライト開講授業</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	形態	実施	特徴・留意点	録画・対面混合授業	—		対面授業 講義（双方向）	○	毎回のテーマに関する講義と討議	実習・演習（個人）	—		実習・演習（グループ）	—		サテライト開講授業	—		その他	—	
形態	実施	特徴・留意点																				
録画・対面混合授業	—																					
対面授業 講義（双方向）	○	毎回のテーマに関する講義と討議																				
実習・演習（個人）	—																					
実習・演習（グループ）	—																					
サテライト開講授業	—																					
その他	—																					
授業外の学習	・予習：教科書を読む。教科書の問題集とケースを事前に解くことが望ましい。 ・復習：学んだ部分を中心に、教科書、教科書の問題集、ケースを読み返す。																					
授業の内容	・企業経営・事業展開で必要とされる経営戦略の基本的理論構成とその体系、経営思想、経営計画、事業戦略構築、組織戦略等を学ぶ。また、経営・事業の戦略の構築・実行・評価のための枠組み・手法を修得する。 ・教科書を用いた解説、問題演習、ケース討議の順番で進める。 ・ケースは、教科書のショートケースを中心とする。グループで討議し、発表する。																					

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	オリエンテーション、授業の進め方、 経済学の基本視点、経済学の意義（需要曲線、供給曲線、市場均衡、死荷重、超過利潤という観点から、企業の経営戦略）を説明してゆく。企業活動に焦点を置いた供給サイドに関する経済学の講義を主に行なう。	—	対面
	第 2 回	この講義では、企業の経営戦略について考察する前に、経済学では基礎となる需要と供給及び余剰分析に関わる基礎的な知識の習得を目指す。	—	対面
	第 3 回	この講義では、競争市場における企業の経営戦略について、経済学の観点から説明できるようになることを目標とする。特に、利潤最大化と完全競争企業の供給曲線に関わる知識の習得を目指す。	—	対面
	第 4 回	この講義では、独占市場における企業の経営戦略について、独占と競争の比較を通して説明できるようになることを目標とする。特に、利潤最大化と価格差別、参入障壁に関わる知識の習得を目指す。時間的余裕があれば、独占に対する公共政策について触れる予定である。	—	対面
	第 5 回	この講義では、不完全競争市場における企業の経営戦略について、不完全競争の例の一つである独占的競争に関わる知識の習得を目指す。時間的余裕があれば、広告をめぐる論争についても触れる予定である。	—	対面
	第 6 回	この講義では、前の講義に引き続き、不完全競争の例の一つである寡占、複占に関わる知識の習得を目指す。また、経営戦略を考えるにおいて必要となるゲーム理論の基礎を解説する。	—	対面
	第 7 回	講義の前半で扱ったポイントを総括する。	—	対面
	第 8 回	中間試験	—	対面
	第 9 回	経営の基本視点、経営学の意義（経営学の定義、企業活動と経営学・経営戦略）米国の経営学・経営戦略論の流れ、経営学の性質、経営学上の人間観	—	対面
	第 10 回	企業の目標（利潤最大化説、複数目的説、ステークホルダー志向）、経営の基本戦略、競争優位性、競争優位の源泉、理念・ビジョン、経営戦略の構造、戦略の策定・上記に関するケース討議（キヤノン）	—	対面
	第 11 回	・環境と経営戦略、市場セグメンテーション、リソース・ベースト・ビュー、コーポレート・ガバナンス、経営責任、企業の社会的責任、経営学のデザイン志向、資本コスト、WACC、MM 定理	—	対面
	第 12 回	・分析の手法、マクロ環境分析、業界分析、SWOT 分析、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（PPM）、差別化 ・上記に関するケース討議（冷凍食品業界）	—	対面
	第 13 回	競争優位の源泉である市場に関する考え方を扱う。PIMS 研究、市場構造と経営（市場構造の種類、参入障壁と差別化、独占市場、寡占市場、独占的競争市場、完全競争市場）	—	対面
	第 14 回	コスト・リーダーシップ戦略（規模の経済、規模の経済の源泉、規模の経済の限界、範囲の経済、経験や学習による優位、デファクトスタンダード、スイッチングコスト市場とロックイン）、市場による競争優位に対する戦略、ブランド 上記に関するケース討議（鉄鋼業界）	—	対面
	第 15 回	経営戦略のまとめ	—	対面
	試験	教科書にある問題をよく復習しておくこと。	—	対面
成績評価		グループレポート・発表 15%、個人レポート 25%、筆記試験 50%、授業への貢献度 10% ※グループレポート・発表の評価は、原則としてグループ内のメンバーで同じ評価とする。 ※授業への貢献度は、単なる出席点ではない。		
教科書・教材		板倉宏昭『新訂 経営学講義』勁草書房 2017 年		
参考図書		Porter, M. E., Competitive Strategy, The Free Press, 1980 (土岐他訳『競争の戦略』ダイヤモンド社, 1982) Barney, J. B., "Is Sustained Competitive Advantage Still Possible in the New Economy?", 2001(岡田監訳「リソース・ベースト・ビュー」『DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー』May, 2005, 78-87 頁) 板倉宏昭, ケースブック地方発企業の挑戦, 税務経理協会, 2005 板倉宏昭他. ネットワークが生み出す地域力, 白桃書房, 2008 Alexander Osterwalder & Yves Pigneur, Business Model Generation -A Handbook for Visionaries, Game Changers, and Challengers , Wiley, 2010 (小山龍介訳『ビジネスモデルジェネレーション - ビジネスマネジメント』翔泳社, 2012)		